

シネマとライブのまち

コーディネーター：NPO法人おだわらシネマトピア

取組の背景

「小田原映画祭（以下映画祭）」は、小田原の知名度アップ、小田原ゆかりの映画上映、フィルムコンテストによる若手映像クリエイターの育成、眠っている写真やムービーの再編集による市民への提供などのために平成17年2月に、「小田原城ミュージックストリート（以下ミュージックストリート）」は、市民演奏家の演奏機会の提供と中心市街地活性化の一助として、平成19年9月に、それぞれ始まりました。

無尽蔵プロジェクトが立ち上がったときには、すでにこれらの事業は恒例のものになりつつあり、「シネマとライブのまち」は、そのような中で生まれています。身近にある文化である「映画」「軽音楽」の分野のイベントを市民主体で行っていることに、大きな意味があると考えています。

活動の狙い

身近な地域で、身近な分野の文化活動により、市民が気軽に文化に触れる機会を提供することで。都市PRという側面もあり、その活動範囲は市域を越えています。

実施内容

映画祭、ミュージックストリートとも、秋に開催しています。それぞれが実行委員会を組織して実施し、相互に協力し合いながらPRを行ったり、映画と生演奏を組み合わせた事業を行ったりしています。

活動の成果

映画祭においてはショートフィルムコンテストへの応募、ミュージックストリートにおいては演奏者の応募は全国から集まるようになっており、毎年その数も増えています。前述したとおり、こ

れらの事業は実行委員会を組織して行っていますが、それが母体となってそれぞれが法人格を持った団体を立ち上げ、映画祭やミュージックストリート以外の活動も行うようになっていきます。

今後の展望

それぞれのイベントを発展させていきたいと思っています。ミュージックストリートにおいては派生イベントも生まれてきており、そうしたのも団体として独立して実施できるような運営上の工夫も考えています。

参考URL

<小田原映画祭>

<http://www.odawara-cinema.com/>



<小田原城ミュージックストリート>

http://blog.livedoor.jp/japan_musicstreet/



取組の経過

＜小田原映画祭＞

平成15年4月～

活動開始&盛り上がりを見せる

平成15年4月に実行委員会が作られ、10月には「銅門野外上映会」を開催しました。また、平成17年2月に第1回目の映画祭を実施、小田原ゆかりの映画の上映やショートフィルムコンテストなどは当初から継続して行っており、平成21年にNPO法人おだわらシネマトピアを立ち上げて以降は、毎年開催しています。

映画祭は、メインの会場は川東地区のシネコンとしていますが、市内の各所で上映会を開いています。毎回、小田原ゆかりの映画の上映、有名俳優を呼ぶなど集客に努めており、ネームバリューもあがっています。自主財源の確保のため、平成26年度から銅門野外上映会を有料事業としましたが、おそらく日本では唯一の城郭内での映画上映という希少性もあり、集客が落ちることなく運営を行っています。

また、映画の上映ということだけでなく、ショートフィルムコンテストの入賞監督が続々と長編映画を作成、発表しています。こうした人材育成・発掘という面でも大きな成果を残しています。



銅門枳形内での野外上映会

＜小田原城ミュージックストリート＞

平成19年9月～

継続は力・今では県下最大規模

平成19年度の第1回目から回を重ねるごとに評判が伝わり、現在では、神奈川県内有数の規模を誇る音楽イベントとなりました。小田原市民会館大ホールを含め中心市街地の商店街などに10か所以上のステージを設け開催しています。

平成23年～

派生イベント続々誕生

小田原地下街で行っていたダンスの部がその人気から「OUR (Odawara Underground Roots)」という名前で独立開催するようになりました。また、屋内イベントとして若手ロックバンドを主体にした「ロードオブアリーナ」を小田原アリーナで開催するようになりました。

さらに、軽音楽系のイベントが活発に行われるようになったことから、平成26年度には「全国高等学校軽音楽コンテスト」の決勝大会の会場に小田原市民会館が抜擢されました。平成28年度の開催地も小田原市に決定しており、継続的な開催地が小田原市になろうとしています。

商店街等のイベントにも積極的に協力しており、こうした盛り上がりから、この事業を行ってきたボランティアスタッフが中心となり、平成23年には一般社団法人ジャパンミュージックストリートを立ち上げ、ミュージックストリート事業の土台を支えています。



街中が音楽で包まれる、特別な1日